

### 平成27年度施政方針について

山田 裕一



〔質問〕平成27年度施政方針の目玉として、どの施策を位置づけているのか伺う。

〔答弁〕【市長】子育て支援と学校教育の充実、交流拠点都市づくり、防災のまちづくりを重点に取り上げている。

〔質問〕目玉施策とは、他市町で実施していないものと考えているが、これが白石の目玉施策であるというものは何か。  
〔答弁〕【市長】少人数学級編成及び特別支援学級サポート事業、個別アレルギ―対策がで

市内全小中学校の今年、全クラスを35人学級にし、ICTを含めて子どもたちにとって、きめ細やかな教育環境の整備と、アレルギ―食対応の学校給食センターは、仙南や県内を見ても早々実施しているところはない。そこで、定住促進の観点からも、これらの事業をいかに発信していくのが大変重要な課題と考えるがいかがか。

〔答弁〕【市長】その発信が非常に大切であると考え。白石市のすべての優遇政策を大きなポスターにまとめ、各企業に張ってもらい、白石市へ定住した場合の優位性をお知らせしていきたいと考えている。  
◎「インGRES」を活用した交流人口拡大について

〔質問〕岩手県や横須賀市では、「インGRES」を観光振興に活用し、交流人口拡大を図っている。

そこで、本市において平成27年度は、片倉小十郎景綱公没後400年、大坂夏の陣から400年、白石城開門20周年と、記念すべき節目を迎えることから、「インGRES」を活用し、本市の魅力である史跡等を発信し、交流人口拡大を図ってはどうか、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】これまでの事例で様々な問題点も発生していると聞いているが、県内では、石巻市の復興団体がインGRESのイベントを実施した。県や石巻市はホームページでイベントの周知のみを実施し、側面からの支援を行ったと聞いている。今後、有効性も含めて調査していきたい。  
〔その他の質問〕  
◎3Dプリンター導入を検討しては

### 健康診断のあり方について

制野 敬一



〔質問〕健康保険医療費が増大する中で、いかに医療費を抑えるかが、どこの自治体でも抱える問題である。現在白石市では、基本健診・特定健診・人間ドックなど、様々な方法を駆使して健診を実施している。

今回、本市で40歳・45歳・50歳・55歳・60歳と5歳刻みで実施している人間ドックの個人負担を、1万円から5千円に引き下げたことは良いことだが、個人負担を据え置き、その対象者を増やす方法の検討はされたのか。

〔答弁〕【市長】自己負担額を軽減し、受診しやすい環境をつくること、受診者の増加に

つながり、より効果的であると考えた。

〔質問〕特定健診の検査項目に、糖尿病の重症化による人工透析患者の抑制につながる尿酸・尿潜血・クレアチニンも含めた検査の充実を図り、糖尿病患者の早期発見に努める必要があると考える。また、動脈硬化の健診に頸部エコーも加えてはどうかと考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】糖尿病の早期発見のため、ヘモグロビンA1cと尿糖検査を取り入れている。また、腎機能検査では、血清クレアチニン、尿酸及び尿蛋白検査を実施している。しかし、頸部エコー検査は、一人に15分くらい時間がかかるため、現

在、健診会場での実施は難しいと考える。

〔質問〕健康診断の結果により、二次検診が必要となる場合、個人の健康管理はもとより、市としてのフォローも重要と考える。それに対応する保健師などの人員、また、医師会との連携は十分なのか伺う。

〔答弁〕【市長】市民のための健康推進事業は、積極的に進めていくことは必要であり、医療費の低減にもつながるため、重要であると考える。専門知識を持つ職員は十分ではないが、適切に対応していると考える。

また、二次検診の対象者には、直接電話などで医療機関受診の案内を促しているため、医師会との連携も図られていると考える。  
〔その他の質問〕  
◎農林業の振興について